醫院事務
明治九年一月ヨリ
全
十年十二月マテ
醫院事務
明治九年一月ヨリ
全
十年十二月マテ
167
東京大学総合図書館

醫院事務
明治九、十年中
東京帝國大學庶務課
5
五十年史料
167

明治九年一月ヨリ仝十年十二月マテ

醫院事務

第二百十三

東京大學醫學部

校長
醫院長
庶務課　山口清

伺指令案

伺之趣聞届解屍検査可致候事

明治九年一月廿八日

東京府下四大區一小區
神田錦町壱丁目十一番地寄留
愛媛縣士族児島惟謙同居
同府平民緒方惟克方逗留
神奈川縣下壱區五番組
北方諏訪町六拾九番地平民

平埜新一

右之者脚病ニテ長く難澁罷在且又血族之者
モ同病ニテ斃候ニ付テハ若養生不相叶節ハ
後人之為解體ニテ其病症ヲ審定致度念
願ニ候處此廿七日午前第五時半死去仕候ニ付

医療進歩之一端ニモ相成候義ニ付何卒
本人念願之通解剖検査被下度此段奉
願候也

明治九年一月廿八日

東京府第四大区一小区
神田錦町壱丁目一番地寄留
愛媛県士族児島惟謙方同居

同府平民
右親友 緒方惟尭

同
右実弟 鈴木甲次郎

医学校 御中

願之趣解剖検査可致候事

廿八日

至急　合　達閲

校長　　庶務課

本校中学科新募生徒体格検査ニ付四月一日ヨリ四日迄ニ同医員両名程出張之儀御照会之趣致承知候右ハ四月一日一ヶ日ニテ相済セ可申ト存候此段及御答候也

明治九年三月三十日

東京医学校

東京師範学校

御中

當校中學科新募生徒六拾名体検指査遂ヲ
儀例ニ通リ依頼致シ候来四月一日ヨリ四日
迄ニ内ノ両名程ノ来校相成度尤当節ハ午
前八時ヨリ出勤致シ居候間同刻ヨリ承掛リ度右
六拾名一ヶ日ニテ相済兼候ニ付四日ニテ十五宛若
両日ニ掛リ候様ニ相成候ハヽ一日ト三日トニ頼致
シ度候間御繰合ヲ以日ヲ決シ御報知下度候
此段御掛合申進候也

九年三月廿九日

東京師範學校

醫學校御中

校長

醫院
庶務課
市川寛繁

新聞紙へ掲載案

當校醫院於テ是迄奇日ヲ以テ外来患者ノ
診察致シ来候處自今日曜日ハ休暇候条
此旨廣告ス

明治九年三月三十一日

東京醫学校

新聞
日々
報知
各三日宛

石山金太郎妻

右ハ先達而ヨリ腹水病ニテ入院之上治療相罷居候處遂ニ死去仕候ニ付本人存命中死去之後屍体解剖之義懇願罷在候間解驗被為成下度此段奉願候以上

明治九年六月廿五日

証人 梅垣彌助

但シ屍体解驗之上ハ埋葬ヲ執行シ葬是又奉願候也

第二大区七小区
麻布新網町弐丁目拾壱番地
平民
福岡安五郎

右之者先達而ヨリ腹水病ニテ入院之上治療
相願居候処遂ニ死去致候ニ付本人存命中
死後屍体解剖之義懇願罷在候間解験
之義下授候様奉願候以上

同大区同小区
同町同丁目同番地

明治九年七月三十日
証人　福岡松五郎

東京医学校
醫院
御中

東京醫學校
醫院
御中

校長　　庶務課

案

貴國人ジオルヂバルデッチ氏儀病氣ニ付貴
下ヨリ証書ヲ持參當校病院ニ入院致度旨
申出候差許候處今般同氏儀病死
致ニ付葬儀ハ貴下ニ於テ御引取相成候哉
爲一應及御問合候也

明治九年十月

東京醫學校長代理
池田謙齋

澳國領事

マルチン、ドーメン貴下

シオルゲ、バルデッチ

右ハ澳地利國ホンガリー州者籍之者ニ而違無之同氏儀病氣ニ依テ此度貴國病院ニ入院致度旨申出候条自費患者同様ニ取計即時御准許有之度此段及御依頼候

江戸千八百七拾六年

三月三日

澳地利ホンガリー州領事

マルチン、ドーメン

日本東京病院

御中

証

黒田由右衛門姉

黒田 ミチ

右之者過日ヨリ入院之上療養相成居候処
遂ニ死去仕候ニ付本人存命中死去之後ハ
屍体解験之義志願罷在候間解験被成
下度此段奉願上候以上

明治九年十二月三日

第一大区十二小区
神田豊島町弐丁目七番地
黒田 由右衛門

東京醫学校
醫院
御中

東京第四大区小七区
本郷四丁目五拾三番地寄留
静岡県士族
正平長男
川村萬
十七年五ヶ月

右之者本日十二時病体解剖施行之相成候ニ付例之通祭祀料御廻之相成度候也

十二月廿三日

追テ別紙証書写御廻之申出有之居御落手有

證

静岡縣士族
川村勇
十七年五ヶ月

右之者入院罹在候所難症ニテ療養不叶
遂ニ致死去候就ル所本人願ヲ以テ死後屍体
解發爾來因病者治方之資料ト相成度旨
申置候ニ付解剖之義私証ヲ以テ本人雅意
之通申出候也

明治九年
十二月
川村正平

右生度候也

東京医学校
御中

校長代理

醫院
庶務課
市川寛繁

新聞紙上広告案

本校醫院外来患者診察時間左ノ通改正致シ候此旨広告候事

明治十年二月

東京醫学校

毎日　午前第十時ヨリ午後第二時マテ

十三日 各三日間
謙斎 毅堂 達斎

十四日
日々 給八 勤務

校長代理
医院
庶務課

外局弐拾号

案

貴院入院病者之内学術研究之為メ診察致度者有之ニ付当校雇教授ドクトル、ベルツ氏貴院ヘ出張致度趣申出候条右差支之有無致承知度此段及照会候也

明治十年三月

東京医学校長代理
長与専斎

陸軍本病院々長
軍医総監松本順殿

本年第四拾八號

御雇教師ドクトルベルルッツ儀学術為研究当院入院病者為診察罷越度旨申出候ニ付御照会之趣致承知候右ハ差支無之候尤右来診之儀ハ当方ヨリ請求ニ無之全クベルルッツ方ニテ請求之儀ニ付其段御心得候様当人ヘ御申聞且来院之時ハ通弁者入用ニ有之候ニ付此段及御回答候也

明治十年三月九日

本病院長

陸軍軍医総監松本順代理

一等軍医正石黒忠悳

東京医学校長代理
長與専斎殿

醫院
支給掛
庶務課
市川寛繁

校長代理

案

本校醫院外来患者診察之儀是迄半ノ日午前第十時ヨリ午後第二時迄ニ候處都合有之當分之内正午十二時ヨリ午後第二時迄ト相定候條此旨廣告候事

但シ眼科ハ従前之通リ

明治十年三月十九日

東京医学校

右三日前廣告
郵理、日々、報知、讀賣、

死後解剖願

不肖成章過ル明治五年ヨリ英學ニ志シ進藤氏ノ攻玉塾ニ入リ習學スル殆ント二年ニシテ醫術ヲ專門ニシ以テ一業トシテ國恩万牛ノ一毛ヲ奉報スル爲同七年海軍々醫寮ニ入學ノ允可ヲ賜リ英國ノ雇ノ教醫某ニ從ヒ解剖及藥劑ノ方ヲ學ブ然ルニ正則変則ノ業ニ乏シクシテ未タ醫學ヲ為スニ足ラズ依テ同八年中慶應義塾ニ入社シ成業ノ上猶ニ所志ノ醫術ヲ再ヒ學ハント欲シ日夜勵精罷在候處豈圖ランヤ同九年六月中俄ニ吐血シテ肺病ヲ発シ因テ即日順天堂ニ入リ治療其功ニ依リ八月ニ到リ稍本復ニ赴キ即チ退院仕候處九月ニ到リ再発シ復タ

順天堂ニ入院シ前日ト同シク治療十月下旬ニ
到リ漸次平復ニ赴キ於是退院シ上湯島梅園
町ニ仮リニ居住ヲ設ケ通療シ荏苒日月ヲ重ネ之
毫モ実功モ無ク日増ニ疲労仕候處本年一月中
乃當院ニ入リ外国教師其他各位ノ御尽力ヲ蒙リ
辱ク奉謹謝候雖然天数ノ所限ニシテ本日ニ
到リ病気殊ニ勝レス昏睡ノ時頻ニ瞬間ニ差迫リ
乍併故人埋葬ヲ受クルモ不堪遺憾ニ因テ死
去ノ後死体ヲ解剖シ病根ヲ実験アランコトヲ伏テ
仰リ他日同病ニ罹リシ者ノ一助トシ且ツ
斯道医学ヲ開クノ一端ニ供ヘ皇恩ノ万一ヲ報セン
コヲ奉願候若シ允裁ヲ賜ハヽ不肖成章ノ喜
悦蘇生ニ踰エ誠惶謹白

明治十年四月十日

第四大区五小区
湯島梅園町五番地寄留
浅村成章
十七年十ヶ月

千葉県下第五大区拾弐小区
上総国市原郡鶴舞村
右実兄士族
浅村一郎

東京医学校
医院
御中

長野縣下
信濃国佐久郡八郡村
平民
浅井藤次郎

右之者明廿一日死去當日病体解剖致ニ付例之通祭祀料五圓相渡度此段及御掛合候也

五月廿二日

東京大学医学部医院會計係

庶務課
御中

綜理代理　庶務課

眞藤小次郎

第二百七拾九号　掛

當部雇教授ドクトル、ベルツ氏貴院入院病者之内学術研究ノ為メ診察致シ度旨去三月中御掛合ヲ以及御依頼候處今般尚亦診察ノ為メ出頭致シ度趣申出候ニ付何日頃出頭可為致哉時日御申越相成度此段及御依頼候也

明治十年十一月二十日

東京大学医学部綜理代理

長与専斎

陸軍本病院々長
御中

御雇教授ドクトル、ベルツ氏当院入院病
者ニ内学科研究ノ為メ診察致シ度旨
御照会ニ趣致承知候右ハ当院ニ於テモ
企望之事候得共方今入院病者僅少ニ
シテ且尋常慢性ノ者ノミ多ク敢テ異症
モ無之候間其内奇異之病症入院候ハヽ
可及御報知候且本人ヘ御通知相成度此段
及御回答候也

十年五月三十一日

陸軍本病院長代理
軍医監 石川良信

東京大学医学部綜理代理
長與専斎殿

福島縣下
第七區高倉村弐百五拾番地
農高森順策長男
高森数衛
二十五年五ヶ月
入院患者

右者昨三日死去病屍解剖之儀本日別紙之通証人ヨリ願出候ニ付テハ先例之通祭祀料下賜候様致度此段及御掛合候也

明治十年六月四日
医院会計事務掛

庶務課
用度課
御中

ドクトル、ベルツ氏當院入院病兵之内去三月中
来診有之成否尿道病者今一應診察致度候ニ付
御再勤之趣ニ兼テ右之國ヨリ差支無之候ハヽ
日数貴何日ニテモ不苦時限ハ午前第九時ヨリ
同十二時迄之間来診有之度其旨本人ヘ御
通知有之候様致度此段更ニ及御照会候也

十年六月五日

陸軍本病院

東京大學醫學部
御中

醫院

庶務課

眞藤小次郎

総理代理

第四百八拾六号　案

第貳百七拾九号ヲ以当部雇教授ドクトル、ベルツ氏貴院入院病者ノ内診察致シ度旨及御依頼候処方今入院病者僅少ニシテ且尋常慢性ノ者ノミ多ク異症モ無之ニ付其内奇異ノ病症入院有之候ハヽ通知可致旨及回答置候趣致承知候然ル処去ル三月中及御依頼候尿病患者今一応診察致シ度儀ニ付特別重テ及御依頼候也

明治十年六月

東京大学医学部綜理代理
長與専斎

陸軍本病院長代理
軍医監石川良信殿

六月廿三日
達済

綜理代理

医院
用度課
庶務課
市川寛繁

新聞紙ヘ広告案

当部医院半日外来患者診察之儀午前第九時ヨリ正午十二時迄ニ来ルベシ右時間ヨリ後ルヽ者ハ診察不致候事

明治十年六月

東京大学医学部

讀賣　日々　報知　朝野
各三日間

至急

醫院
総理代理　用度課
庶務課
市川寛繁

虎列剌病用意薬施ニ付テ左案新聞紙ニ
報告且用法薬包紙ト印刷可然哉

案

當部醫院ニ於テ虎列剌病用意薬壱人ニ付
四粒限リ施薬致候事
明治十年九月
東京醫学校

施薬　虎列剌病用意薬

右虎列剌病ニ感染シ下痢一二回ニ至レハ壱丸ヲ微温湯ニテ服用シ直ニ最寄ノ医師ニ診断ヲ乞フベシ尤モ此丸薬ハ予防薬ニ非レハ下痢ナキ時ハ用フヘカラス

大坂表ヘ醫員出張之件ニ付別紙之通リ達
相成候ニ付而ハ貴部ニ於テ下醫并生徒之内
可成丈繰合セ多員ヲ撰出相成候様致度
此旨申進候也

明治十年十月四日

文部省學務課長　九鬼隆一

東京大學醫學部綜理心得
長與專齋殿

東京大學醫學部

別紙之通公達相成候條其部醫員之内派出可為致人員至急取調可申出候旨相達候也

明治十三年十月四日　文部大輔田中不二麿

文部省

大坂在勤軍医正石黒忠悳ヨリ別紙電報之通申来右ニ付テハ其省医師ノ中差支繰合セ至急出張候様可取計此旨相達候事

但人員取調陸軍省ト可打合事

明治十年十月四日　太政大臣三條実美

東京
松本総監　　　　大坂
　　　　　　　　石黒軍医正

神戸ヘ凱旋ノ兵隊虎列剌ノ伝染甚劇ク廣原ニ火ヲ焼クガ如シ加之西京大津ホ陸地行軍之沿道ニテ罹ル者夥シク此地五千之患者ニハ忠恵氏八名ニテ他ノ医官ハ皆派出セシメタリ故ニ海陸官衙文部ヨリ向ハス下モハ下等ノ傭医師迄一人ニテモ餘計ニ滊船便ナクハ陸地早追ニテ差越シヨ

十月三日午前七時二十分発

過刻御談話之件ハ今出長官ヨリ申陳候處別
紙之人員等御申出之通ニテ可然旨ニ存候
精々至急出張相成度且本科生徒之木政
者初ハ貴学部御時雇ニ致シ給料旅費等ハ
之御差合次第別途交替之運ニ可致筈候條
呉々モ早々発程候様御取計有之度此旨
申進候也

十月五日　　　九鬼

犬飼殿

追テ陸軍省ヘハ打合セ有之候儀ニ候也

助教

月給四拾円　吉田貞準

仝　櫻井郁二郎

二等本科生

佐々木政吉

佐々木文蔚

平井英輔

田澤敬輿

島潟恒吉

梅錦之丞

新藤二郎

清野勇
河野衢
川上清哉
熊谷玄旦
高階経本
大森治豊
神田由己
埴並魯吉
片山國嘉
外山林助
石黒宇宙治
上田完治
佐藤一之助

監事
草郷清四郎

トウ、ブノ、イ、ン、ハジメ、ニ、ジウ、サン、メイ、ゴゼン、シチジ、リクチ、シユツタツセリ、

十月六日

東京大学医学部

大阪
臨時病院

千葉縣下第一大區十一小區
安房國平郡青木村
金谷浦二男平民
武半平治

右病体解剖ニ差出候ニ付祭祀料ノ金三圓当方省ヨリ渡
候様及御依頼候也

十年十月八日

医院会計事務掛

庶務課
御中

綜理代理　庶務課

市川寛繁

案

第四百四拾号

文部大輔田中不二麿殿　東京大学医学部綜理代理

長與専斎

本日以達相成候大坂表ヘ出張之医員並本年及本科第三級生一同明六日早天当地発程為致申候此段上申候也

明治十年十月五日

綜理

用度課

庶務課

市川寛繁

新聞紙ニ廣告案

當部醫院外来外科患者診察之儀是迄水曜土曜両日ニ有之候處来ル十一日ヨリ定例休暇ヲ除クノ外隔日ニ相改メ候事

但午前第十時迄ニ来ルベシ

明治十年十一月十日

東京大學醫學部

日々、朝野、報知、読売、ノ
四社ニ各三日間

府下第四大區貳小區
今川小路壹丁目貳番地
川路太十郎妻
川路ヨシ
四十六年九月

右之者本日病体解剖相成死体之儀ハ直ニ
天王寺ニ埋葬致候様下度旨願出候間一応御
届申上候也

十年十二月廿八日
医院事務掛

庶務課御中

綜理

用度課

支給掛

庶務課

市川寛繁

新聞紙ニ広告案

当部医院内科外科教師外来患者診察ノ義
従来水曜日ニ定メ今般月曜木曜両日ニ相改メ
候此旨広告ス
但患者ハ午前第八時迄ニ来ルベシ

明治十年十二月

東京大学医学部

朝野　報知　日々　讀賣
各三日間

内科教師診察日従来水曜日ニ有之候処今般更ニ
月曜木曜両日ニ相改候ニ付右至急廣告相成度
此段及御掛合候也

十年十二月四日

醫院事務掛

庶務課

御中

追テ患者ハ右交両日共午前第八時迄ニ来ル
ベシト添テ廣告有之度候也

第一大區十二小區
神田柳町三番地平民
源梅三郎
四十八年

右之者キリニーキニテ入院罷在處本日死歿ニ入リ候親戚之者ヘ解剖濟之上ニテ谷中天王寺ヘ埋葬之儀願出候間可然御取計可被成候也

十二月廿六日

醫院會計掛

庶務課
支給掛
御中

源梅次郎儀本日午後一時三十分ニ死去
今夕四時ニ出棺之積リニ有之候右樣御承知
被下度候也

十二月廿六日

東京大学
医学部医
院會計掛

庶務課
御中